

ヒコ-キ野郎 夢の跡



ジャイロコプターに乗
って宙に舞う大西さん
1164年ころ、群馬県館
林市で/写真提供・大
西さん



群馬・館林

「自宅の庭から飛行機を飛ばしたい」。
群馬県館林市の大西勇一さん(80)は、真
上には約40年前、こんな思いで、畑の真
ん中に飛行機をつくってしまっただ。車の
エンジンを搭載した自家製のモーターグ
ライダーや軽飛行機で大空を闊歩した。
ヒコ-キ野郎の夢を実現させた、その飛
行場が31日付で廃止になる。

畑の中の飛行場 40年の歴史に幕



大西さんがつくった飛
行場は、館林市と隣接の
邑楽町にまたがり、60
0以上の滑走路を備え、単
発機やヘリコプターの離
陸場にも利用されてき
た。国土交通省航空局に
よると、民間が設置管理
者の非公共用飛行場は全

国に6カ所あるが、個人
が建設した例は珍しいと
いう。
香川県の旧陸軍飛行場
近くで生まれ、幼少から
空にあこがれた。小学校
卒業後、大阪で国鉄に勤
め電気技術を学んだ。陸
軍の航空廠に転じ、本物
の飛行機整備に携わっ
た。

戦後、東京に移り住み
結婚、白黒テレビの製造
工場を経営した。ブーム
に乗って稼いだ。工場の
土地や建物を処分する
と、当時の4千平方メ
ートルに飛んだこともあ
った。62年、妻の郷里の
館林に転居し、その金で
飛行場用地を買った。

2年後、長さ600メ
ートルの簡易舗装した滑走路が
できた。民間「大西飛行
場」の始まりだ。竹こん
ぼのようなジャイロコプ
ターをつくり、車で電航
して飛ばした。
中級滑空士や自家用操
縦士免許を取得、70年に
は、自家製モーターグ
ライダーで神奈川県の茅ヶ
崎海岸と伊豆大島を往復
した。模型用のエンジン
6基を翼につけたグライ

ダーで飛んだこともあ
る。
71年に国から正式な飛
行場設置の許可がおり
た。軽飛行機による広告
飛行や、遊覧飛行などの
事業で飛行場の運営を目
指したが、土地買収でか
さんた借金膨らみ、1
年余りで土地も飛行場の
経営権も一切を売却し
た。
それでも地元では「大
西さんの飛行場」。飛行
場を買い受けた土地管理
会社は「大西飛行場」の
名をそのまま残し、大西
さんを相談役として抱い
た。飛行場はパブル崩壊
後、フライト数の減少な
ど不採算を理由に昨年12
月に供用を休止した。
大西さんは、飛行場か
ら200メートル離れた場
所に園を構える。20年ほ
ど前までは、操縦もして
いた。夢をかけた飛行場
の廃止に「寂しい気はす
るが、自分の夢は果たせ
た。悔しい」と話し
た。